

# 自治体史編さん事業と字誌編さん

渡部 幹雄

Relationships between Histories of Self-Governing Bodies and Those of Hamlets

WATANABE, Mikio

愛知川町史研究 第3号 別刷

愛知川町教育委員会 町史編さん室

2005年3月

## 自治体史編さん事業と字誌編さん<sup>あさし</sup>

渡部 幹雄

### はじめに

今滋賀県下では自治体史作りが活発化している。その外在的要因として「平成の合併」が考えられるが、内在的要因として、字誌作りを見逃すことができない。というのは例えば愛知川町が含まれる湖東地域に限定して見ると、字誌作りが展開される時期と、自治体史作りが展開される時期が一致しており、両者の関連性が指摘できるからである。字誌は自治体史の裾野の部分に相当する。字誌作りを通して、字誌作りがより豊かな地域作りをするための極めて有為な取り組みのひとつであることが自治体の刊行関係者の共通認識となり、これが自治体史の必要性についての認識を深めたものと思われる。

字誌づくりは自治体史に比して対象エリアが集落単位であり、住民の生活とより密接な関係にある。個人のレベルでの関わりが深いことに加え、字が所属する市町村による自治体史との隙間を埋める役割も担っている。

本稿では愛知川町での字誌編さん過程の事例をとおして、

コミュニティにおける生活記録活動としての字誌づくりの今後の可能性を検討するものである。

### 一 湖東地域の自治体史と字誌

二〇〇五年二月一日時点の湖東地域の彦根市、近江八幡市、八日市市、犬上郡、愛知郡、神崎郡、蒲生郡の各エリアにおける「昭和の合併」以降の主な自治体史編さん事業は表1のとおりである。

湖東地域での自治体史編さん事業の取り組みは極めて活発であり、しかも九〇年以降にその多くが集中している。また字誌づくりにおいても同様で、滋賀県立図書館に所蔵されている滋賀県内の字誌の収蔵数は表2のとおりである(1)。

このように九五以降の滋賀県下は字誌ブーム到来といっても過言ではない状況である。そして特筆すべきことは、滋賀県立図書館に収蔵されている字誌の半数近くが湖東地域で刊行されていること、その湖東地域では、七五年以降増加傾向にあること、また、湖東地域の中でも秦荘町の字誌の刊行数が突出していることである。

自治体名	編さん室設置年	刊行状況	合併の動向	備考
彦根市	2001年	刊行中	合併協議会	60～64年
近江八幡市	2001年	刊行中		
八日市市	1983年	刊行	東近江市05年	
神崎郡 永源寺町	2001年	刊行	東近江市05年	
五個荘町	1992年	刊行	東近江市05年	
能登川町	2004年	刊行中	合併検討協議会	
蒲生郡 蒲生町	1993年	刊行	合併検討協議会	
竜王町	1983年	刊行		
日野町	2001年	刊行中		
安土町	1983年	刊行		
愛知郡 湖東町	1979年	刊行	東近江市05年	
愛東町	2003年	刊行中	東近江市05年	
秦荘町	2001年	刊行中	合併協議会	
愛知川町	2001年	刊行中	合併協議会	
犬上郡 豊郷町	1963年	刊行	合併協議会	
甲良町	1984年	刊行	合併協議会	
多賀町	1991年	刊行	合併協議会	

表 1 湖東地域自治体史刊行状況（2005年2月1日現在）

字即ち自治区会が字誌編さん事業に着手するための条件として、「人材」「資金」「環境醸成」が挙げられる。先に述べた秦荘町では一九八七年に我孫子字誌が発刊された。ある郷土史家がリーダーとなり編さん事業を遂げたのである。これは資金や字内の環境醸成が整っていない中で「人材」の果たす役割の大きさを如実に示した特異な例であるが、この我孫子字誌の発刊が口火となって、以後表3に示されるように周辺の字に字誌編さん事業が飛び火した。我孫子字誌が周辺の字への「環境醸成」の役割を果たしたのである。環境醸成と

二 字誌編さんへの展開

区分	滋賀県全体の字誌発刊数	湖東地域の字誌発刊数
75年～79年	2	1
80年～84年	3	2
85年～89年	5	3
90年～94年	8	3
95年～99年	24	11
00年～04年	19	13

表 2 字誌刊行数 表 4 をまとめたもの。

名称	編さん体制	編さん期間	体裁、巻構成等	経費(補助金)	集落戸数	出版部数
『我孫子史』	8名	79年～87年 8年間	A5判、全3巻・総526頁	約200万円	170戸	450部
『蚊野誌』	8名	85年～89年 4年間	A5判、全1巻・総455頁	約230万円	236戸	
『栗田史』	9名	89年～93年 5年間	A5判、全2巻、総616頁	約500万円	61戸	500部
『元持今昔誌』	16名	95年～97年 3年間	A5判、全1巻、総443頁		86戸	
『松尾寺誌』	6名	87年～96年 9年間	A5判、全1巻・総222頁		104戸 (2自治会)	
『目加田』	47名	95年～98年 4年間	B5判、全2(3)巻・総548頁		174戸	
『島川誌』	34名	97年～00年 3年間	A5判、全1巻・495頁	約330万円 (有)	123戸	350部
『東出』	12名	97年～00年 3年間	B5判、全1巻・総303頁	約370万円 (有)	91戸	300部
『竹原志』	10名	98年～00年 2年間	A5判、全1巻・総345頁	約330万円 (有)	62戸	300部

(秦荘町教育委員会作成)

表3 秦荘町の字誌刊行状況

いう点で言えば、竹下内閣のふるさと創生事業、滋賀県のふるさと淡海事業の影響も否定することはできない。これらの事業により字内でソフト事業の認知が市民権を得たのである。

上記の表3のとおり、秦荘町では九つの字誌が刊行された後の二〇〇一年四月から町史編纂事業に着手している。

### 三 愛知川町東円堂とうえんどうの字誌編さん

愛知川町東円堂は愛知川町の南東部に位置する戸数三〇〇戸程の集落である。この集落で字誌が九一年と〇一年の二度に亘り刊行されたのは注目すべきことである。最初の字誌は、ふるさと創生事業で振り分けられた補助金の使途が誘因となつて編纂事業に着手することが区会で決定された。まず初めに字誌着手の条件の一つである「資金」が確保されたわけである。しかし、実は字誌編纂事業を予算化する前提として、条件の他のひとつである「人材」即ち字誌編纂の能力を有する郷土史家の存在の認識がすでに字民にあった。区会で字誌編纂事業が承認されると東円堂字誌編纂委員会が組織され、委員長に字内の寺の住職である郷土史家が就任した。委員には歴代の字の区長や長老も加わった。編纂委員会の構成メンバーに字内の各小字から均衡に元教員、元会社員、農業者等々が一〇人選出された。東円堂字誌の場合この構成メンバーの選出が字誌の性格に大きく影響を与えている。字誌というも

のが本来字の行政の記録に留まらず字内のあらゆる事象を取上げて地域の全体像を描くものとすれば、当然それは行事の記録集や古老の経験談の記述にとどまらないで科学的な実証性も具えていなければならない。東円堂誌の特徴の一つは、郷土史家に全てを任せるのではなく、組織的な編纂体制が確立されていること、すなわち字としての責任の所在が明確なことである。またこの字民全体による取り組み<sup>(2)</sup>は、共同墓地の整備に端を発している。字としての取り組みの起源をうかがわせるもので、興味深い。

#### 四 字誌づくりと町史編さん事業の関係性

字誌づくりが自治体史編纂事業に少なからぬ影響を与えていることが、秦荘町の字誌の発刊と秦荘町史編纂事業着手の経過から推測できる。秦荘町の専門職の配置、編纂体制の整備、予算状況、字単位の調査等々両者の関連を説明できるものは枚挙に暇がない。また、愛知川町史編纂事業においても東円堂誌刊行の影響を指摘することができる。

字誌に記載された身近な歴史の記述による町史編纂のイメージの共有化と字誌づくり編纂体制の広がりによって、町史編纂事業の認知度が促進されたのである。

また、こうしたケースとは逆に、国安寛氏が「自治体史によって触発され、住民自らが歴史を学ぶ主体者となって「歴史資料」を利用して歴史を記述し、さらには歴史を創造するという発展性を持つ段階にきている。」<sup>(3)</sup>と指摘しているよ

うに、字誌が自治体史を産み、刊行された自治体史により新たな字誌が産み出されるという循環も想起できる。更には最も身近である自分史も、その延長線上に位置している。このように捉えると自治体史編纂事業の広がりと今後の展望が見えてくるのである。そうした全体像を踏まえた町史編纂事業の体制作りが今後の課題である。

註

(1) 巻末の表4に滋賀県立図書館が所蔵する滋賀県内の字誌のリストを掲載したが、滋賀県立図書館未所蔵の字誌の存在の可能性もあることをお断りする。また、字誌を 集落住民によって組織された編集組織が編集したもの、 おおむね一〇〇頁以上の印刷物、 対象エリアを集落に限定した内容のもの、と規定して記述した。

(2) 東円堂誌発刊の経過は筆者の東円堂誌編纂委員会関係者への聞き取り調査(二〇〇五年二月実施)での当事者からの証言による。

(3) 国安寛「自治体史編纂の立場から 資料収集と利用そして保存」『秋大史学』四〇、一九九四年

(愛知川町教育委員会 町史編さん室長)

発行年	書名	自治区名	概要	市町村名
1975	佐山村志	佐山村区	118頁	甲賀町
1976	敏満寺史	敏満寺区	277頁	多賀町
1980	晴嵐史話	晴嵐史編集委員会	282頁	大津市
1983	郷土史 旭森	郷土史旭森編纂委員会	228頁	彦根市
1984	東櫻谷志	東櫻谷公民館	783頁	日野町
1987	南三ツ谷郷土史	南三ツ谷町自治会	30、138頁	彦根市
1987	我孫子史	我孫子壮年会	総526頁 全3巻	秦荘町
1987	ふるさと神田	加田区	322頁	長浜市
1989	ふるさと箕浦	箕浦区	147頁	近江町
1989	蚊野誌	蚊野区	456頁	秦荘町
1991	東円堂誌	東円堂区	129頁	愛知川町
1992	小口史	小口史編纂委員会	359頁	竜王町
1993	大津市錦織町	錦織町	107頁	大津市
1993	南市史	南市史刊行会	268頁	安曇川町
1993	榊の今と昔	榊自治区	77、44頁	高島町
1993	粟田史 上・下	粟田区	上下巻 615頁	秦荘町
1993	田堵野誌	田堵野区	124頁	甲賀町
1994	ふるさと本庄	本庄町自治会	225頁	彦根市
1995	藤尾の歴史	藤尾奥区	112頁	大津市
1995	肥田町史	肥田自治区	442頁	彦根市
1995	上野の黎明	上野区	127頁	甲賀町
1996	広野町史	広野町史編纂委員会	355頁	彦根市
1996	小田菟沿革史	小田菟沿革史編纂委員会	198頁	湖東町
1996	松尾寺誌	松尾寺区	222頁	秦荘町
1996	郷土史ふるさと深川	深川区	151頁	甲南町
1996	小川原史	小川原区	218頁	甲良町
1996	横関史	横関区	412頁	甲良町
1997	磯尾史	磯尾史編集委員会	177頁	甲南町
1997	芋くらべの里中山史	中山東区	830頁	日野町
1997	元持今昔誌	元持区	443頁	秦荘町
1998	ふるさと下小川	ふるさと下小川	281頁	安曇川町
1998	目加田誌 上・下	目加田区	上205頁 下343頁	秦荘町
1998	ふるさと油日	油日区	601頁	甲賀町
1998	ふるさと神村	神村区	812頁	甲賀町
1998	和田郷史	和田郷史編纂委員会	802頁	甲賀町
1998	生々流転	江頭町自治会	522頁	近江八幡市
1998	ふるさと いむら	飯郷づくり実行委員会	347頁	近江町
1999	新保誌	新保誌編集委員会	76、38頁	マキノ町
1999	南船木史	南船木区史編集委員会	450頁	安曇川町
1999	ふるさと五十川	五十川区誌編纂委員会	381頁	新旭町
1999	ふるさと小幡史	小幡区自治会	440頁	五個荘町
1999	鳥居野史	鳥居野区	511頁	甲賀町
2000	庄堺史	庄堺区史編集委員会	424頁	安曇川町
2000	島川誌	島川区	495頁	秦荘町
2000	竹原志	竹原区	345頁	秦荘町
2000	東出誌	東出区	303頁	秦荘町
2000	上羽田町のあゆみと思い出	上羽田町平石自治会	227頁	八日市市
2000	字誌ふるさと雨森	雨森区	522頁	高月町
2000	竹原志	竹原区	345頁	秦荘町
2001	浜野のあゆみ	浜野総自治会	326頁	八日市市
2001	続東円堂誌	東円堂区	361頁	愛知川町
2001	下之郷の歴史	下之郷の歴史編集委員会	230頁	甲良町
2002	わが郷土 小泉のあゆみ	小泉町史編纂委員会	189頁	彦根市
2002	筑摩字誌	筑摩区	417頁	米原町
2003	観音寺町の歩み	観音寺町	27頁	彦根市
2003	ふる里三大寺区	三大寺区	124頁	水口町
2003	鷹飼の歩み	鷹飼町自治会	402頁	近江八幡市
2003	たかみぞ(高溝)	高溝ロマンの里史編集委員会	301頁	近江町
2003	能登瀬のあゆみ	大字能登瀬史談会	331頁	近江町
2004	南大萱史	南大萱史編さん委員会	447頁	大津市
2004	普光寺町史	普光寺町自治会	301頁	彦根市
2004	法養寺誌	法養寺区	459頁	甲良町

表 4 滋賀県下の字誌刊行状況 滋賀県立図書館の収蔵リストから渡部作成。